授業科目名： 国語学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ４単位	担当教員名： 西川　学 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

日本語のしくみを理解し、ことばを客観的に分析する力を身に付け、中・高の国語科の教材研究の基本となる資質・能力を高めることをねらいとする。この授業を通じ、中・高の国語教育に生かせる知識として日本語の音声・音韻，文法の体系を説明できるようになることを到達目標とする。

授業の概要

日本語という言語のしくみを学び、受講者それぞれが、今後の自らの研究内容に活かせるための、日本語の知識と研究方法を知ることを目的とする。現代日本語を主な対象とし、言語と人間の関係、文字・表記、音声・音韻、語彙、文法、方言について解説する。

授業計画

第 1回: オリエンテーション「ことば」「日本語」「国語」とは何か
第 2回: 音声学①調音点と調音法、国際音声記号
第 3回: 音声学②日本語の音声の特徴
第 4回: 音韻論①音素と異音
第 5回: 音韻論②音韻変化
第 6回: 第1回～第5回のまとめとテスト
第 7回: 文字①漢字と仮名
第 8回: 文字②ローマ字と表記法
第 9回: 語彙①単語と語構成、意味
第10回: 語彙②語構成と造語法、語種
第11回: 第7回～第10回のまとめとテスト
第12回: 文法①国文法と日本語文法、文のしくみ
第13回: 文法②自立語・付属語
第14回: 文法③体言・用言
第15回: 文法④モダリティ
第16回: 文法⑤テンス・アスペクト
第17回: 第12回～第16回のまとめとテスト
第18回: 日本語の諸相①待遇表現・敬語
第19回: 日本語の諸相②位相語
第20回: 日本語の諸相③文章・文体
第21回: 日本語の諸相④修辞法とことば遊び
第22回: 日本語の諸相⑤日本語教育と国語教育
第23回: 第18回～第22回のまとめとテスト
第24回: 日本語史①上代から中世
第25回: 日本語史②近世から現代
第26回: 社会言語学
第27回: 方言①地域方言
第28回: 方言②社会方言
第29回: 第24回～第29回のまとめとテスト
第30回: 総復習　まとめ
定期試験

テキスト
教科書名　日本語概説
著者名　　沖森卓也
出版社名　朝倉書店

参考書・参考資料等
参考書名　　中学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　ぎょうせい

参考書名　　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　東山書房

学生に対する評価
定期試験　40%
授業参加度（発表・授業態度等）　15%
授業外学修　20%
確認テスト　25%

授業科目名： 日本語学研究A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ４単位	担当教員名： 柿木　重宜、塚本　秀樹 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

現代日本語学の様々な研究テーマを具体的な例を通して理解し、日本語学の基礎的な事項を説明できる。

授業の概要

日本語の音声、語彙、文法、文字などの基礎的な事項について講義する。その後、語源、日本語の起源、地域方言と社会方言、辞書と言葉の規範、「国語」という用語の成立等、日本語学における様々なトピックについて詳説したい。また、現在、日本語の起源については、どの研究者も納得できる学説は提示されていないが、これまで、アルタイ諸語（モンゴル語、チュルク諸語、満州・ツングース諸語）との系統関係が指摘され、他にも、アイヌ語、朝鮮語、マライ・ポリネシア諸語などの様々な学説もみられた。では、なぜ現代日本語の起源は解明されないのか。本講義では、このような課題も取り上げ、様々な諸資料を駆使しながら、系統論史に関わる比較言語学、類型地理論学的アプローチ等、専門的な言語学の見地から詳述したい。同時に、世界の様々な諸言語と日本語を比べ、音韻、形態、文法の相違点について分析しながら、このような対照言語学的観点からの研究成果が、留学生に対する日本語教育に役立つことについても言及したい。本講義を通して、日本語の特質とは何かという点について深く考えてもらいたい。

授業計画

第 1回: 日本語の言語特徴について
第 2回: 音節構造と語順
第 3回: 音声言語と文字言語について
第 4回: 合成語における変音現象とは
第 5回: 連濁・連声・転音現象・音韻脱落・音韻添加
第 6回: ライマンの法則とは
第 7回: 形声文字（音符と意符）
第 8回: 六書（象形・指事・会意・形声・転注・仮借）
第 9回: 語種について
第10回: 語彙のイメージと語彙の変化
第11回: なぜ短縮語が生まれるのか
第12回: 現代日本語文法と文法理論の変遷
第13回: 品詞について
第14回: 宮田幸一の文法理論とローマ字の関係性
第15回: 言葉の規範とは何か
第16回: 敬語
第17回: 正しい日本語と美しい日本語は存在するのか
第18回: 「国語」という用語を巡って－上田萬年の国語観－
第19回: 言語学者藤岡勝二の言語思想について－言語の本質は変化することにある－
第20回: 日本語教育と国語教育の違いについて
第21回: 絵になった感動詞
第22回: 打つ文と書く文－メール言語は誤りか－
第23回: 日本語の起源－日本語はどこから来たのか－
第24回: 日本における日本語系統論史について
第25回: 地域と社会に関わる言葉について
第26回: 辞書の話－理想の辞書とは－

第27回: 語源の話
第28回: 日本語学の専門用語ーとりわけ、テンス、アスペクト、モダリティを巡ってー
第29回: 言語共同体と外界の分節について
第30回: 日本語学と日本語教育ー対照言語学の研究成果を通してー
定期試験

テキスト
教科書名　日本語学トレーニング100題
著者名　　柿木重宜著
出版社名　ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等
参考書名　　日本語の歴史
著者名　　山口仲美
出版社名　　岩波新書

参考書名　　ことばは国家を超えるー日本語、ウラル・アルタイ語、ツラン主義
著者名　　田中克彦
出版社名　　ちくま新書

参考書名　　ある近代日本文法研究史
著者名　　仁田義雄
出版社名　　和泉書院

参考書名　　日本における近代「言語学」成立事情Ⅰー藤岡勝二の言語思想を中心として
著者名　　柿木重宜
出版社名　　ナカニシヤ出版

学生に対する評価

定期試験	30%
小テストまたは中間テスト	20%
レポート	30%
授業外学修	20%

授業科目名： 日本語学研究B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ４単位	担当教員名： 川光　真二、向井　絵美 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

・音声学・音韻論、形態論、統語論の基本的概念を説明できるようになる。
・言語データの整理、分析といった過程を通じて、日本語の構造を理解できるようになる。
・音声学・音韻論、形態論、統語論の最新の研究動向を説明できるようになる。

授業の概要

日本語学の基本的な事項を整理、確認しながら、講義を進め、日本語の特質とは何か、日本語は世界の諸言語の中で、特殊な言語なのか、言語学の理論を援用しながら、受講生に理解を深めてもらいたいと考えている。とりわけ、社会言語学や対照言語学の研究テーマについては、日本語と他の諸言語の言語特徴を比較しながら、詳説していきたい。

このような研究成果を理解することが、外国人留学生に対する日本語教育の一助になることについても論じたい。

授業計画

第 1回: 日本語学とは何か
第 2回: 音声学
第 3回: 音韻論
第 4回: 同化と異化について
第 5回: 音声言語と文字言語について
第 6回: 五十音図における文字と音の関係
第 7回: 高低アクセントと強弱アクセント
第 8回: 合成語における変音現象について（連濁・連声・音韻添加）
第 9回: 語彙の分類について（和語・漢語・外来語・混種語）
第10回: 位相語（男ことばと女ことば・幼児ことば・武者詞・女房詞・遊女詞・忌み言葉）
第11回: 現代日本語の文法研究について
第12回: テンス、アスペクト、モダリティ
第13回: 言語類型論（SOV型言語とSVO型言語）
第14回: 日本語の膠着性について
第15回: 日本語の文字
第16回: 文字の秘儀性とは何か
第17回: 社会言語学について
第18回: 地域的変種
第19回: 社会的変種
第20回: 上下関係と親疎関係－とりわけ二人称代名詞を巡って―
第21回: 言語変化の研究－日本と欧米の違いについて―
第22回: 幼児の言葉の獲得
第23回: 言語を獲得するメカニズムについて
第24回: 日本語の系統論
第25回: 日本語とアルタイ諸語との系統関係
第26回: 日本語学における言語学の受容
第27回: 日本語学と対照言語学－日本語教育への応用－
第28回: 「国語」の誕生
第29回: ローマ字化国語国字運動について
第30回: まとめ
定期試験

テキスト
　　教科書名　新・ふしぎな言葉の学 ： 日本語学と言語学の接点を求めて
　　著者名　　柿木重宜著
　　出版社名　ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等
　　参考書名　　中学校学習指導要領　総則編
　　著者名　　文部科学省［編］
　　出版社名　　ぎょうせい

　　参考書名　　高等学校学習指導要領　総則編
　　著者名　　文部科学省［編］
　　出版社名　　東山書房

学生に対する評価
　　定期試験　　20%
　　小テストまたは中間テスト　20%
　　レポート　　40%
　　授業外学修　　20%

授業科目名： 言語学研究A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ４単位	担当教員名： 塚本　秀樹 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

（１）人間の言葉というものに対する新たな見方を養うことができる。
（２）人間の言葉について自身で分析し，考えるおもしろさを知ることができる。

授業の概要

学期前半の１５回の授業では，言語の本質の解明を目指す「言語学」という学問分野の中にどのような下位の研究分野があり，それぞれの研究分野においてどのような研究が行われているのか，ということを修得する。
また，学期後半の１５回の授業では，言語学の諸研究分野の１つである「言語類型論」について学び，その基礎的な考え方や分析力を身につける。

授業計画

第 1回: オリエンテーション，及び学期前半の序論：言語学とは？
第 2回: 言語学の諸研究分野（１）：音声学・音韻論
第 3回: 言語学の諸研究分野（２）：形態論・語彙論
第 4回: 言語学の諸研究分野（３）：統語論
第 5回: 言語学の諸研究分野（４）：意味論・語用論
第 6回: 言語学の諸研究分野（５）：談話分析・テクスト言語学
第 7回: 言語学の諸研究分野（６）：文字論
第 8回: 言語学の諸研究分野（７）：歴史言語学・比較言語学・文献言語学
第 9回: 言語学の諸研究分野（８）：対照言語学・言語類型論
第10回: 言語学の諸研究分野（９）：記述言語学・理論言語学・認知言語学
第11回: 言語学の諸研究分野（10）：フィールド言語学・コーパス言語学
第12回: 言語学の諸研究分野（11）：言語哲学・心理言語学
第13回: 言語学の諸研究分野（12）：社会言語学・言語地理学・言語人類学
第14回: 言語学の諸研究分野（13）：文体論・応用言語学・神経言語学・コンピュータ言語学／計算言語学／自然言語処理
第15回: 学期前半の授業のまとめ・総復習
第16回: 学期後半の序論：言語の数・国と言語・各言語の話者数など，言語類型論とは？
第17回: 音韻論に関する言語類型論（１）：母音体系
第18回: 音韻論に関する言語類型論（２）：音節構造，口母音と鼻母音
第19回: 形態論に関する言語類型論（１）：孤立言語
第20回: 形態論に関する言語類型論（２）：膠着言語
第21回: 形態論に関する言語類型論（３）：屈折言語
第22回: 形態論に関する言語類型論（４）：複統合言語・輯合言語
第23回: 統語論に関する言語類型論（１）：語順
第24回: 統語論に関する言語類型論（２）：格表示
第25回: 統語論に関する言語類型論（３）：関係節化
第26回: 統語論に関する言語類型論（４）：受動化
第27回: 統語論に関する言語類型論（５）：数量詞の遊離
第28回: 語彙論・意味論に関する言語類型論（１）：「雪」に関する語
第29回: 語彙論・意味論に関する言語類型論（２）：色彩語
第30回: 学期後半の授業のまとめ・総復習

テキスト

教科書は使用しない。適宜ハンドアウト等を配布する。

参考書・参考資料等

参考書名　言語学入門：これから始める人のための入門書
著者名　佐久間淳一, 加藤重広, 町田健著
出版社名　研究社

参考書名　はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章
著者名　大津由紀雄編著
出版社名　ミネルヴァ書房

参考書名　はじめて学ぶ日本語学：ことばの奥深さを知る15章
著者名　益岡隆志編著
出版社名　ミネルヴァ書房

学生に対する評価

言語分析課題（８回の予定）	70%
授業中の発言・議論状況	15%
毎回の授業終了時のコメント記述	15%

授業科目名： 国文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ４単位	担当教員名： 西川　学 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

日本古典文学の歴史的展開について、時系列に従って講義する。「物語」「和歌」「連歌」「俳諧」「説話」「お伽草子」「浮世草子」「読本」などがどのような表現であるか説明できるようになること。また、「古代」「中世」「近世」といった大きな枠組みで、それぞれがどのような時代であったかを歴史的背景と関連付けて、文学作品の特質を説明できること。

後半では近代文学の流れを把握しながら、それぞれの作家がどのような特徴を持っているのかについて理解する。

授業の概要

上代～中世、近・現代までに残された数多くの文学作品について、具体的な作品内容に触れながらその特色について学ぶ。また、作品の成立背景や当時の文化、他の文芸作品との関わりについて理解を深め、長い歴史の流れのなかでそれらがどのような意義を持つかについて考える。

授業計画

第 1回: 東アジアの中の日本語 「神話」の成立と『古事記』『日本書紀』をめぐって
第 2回: 日本語、文字と出会う。表記としての万葉仮名と『万葉集』
第 3回: 「かな」と「和歌」の成立――『古今和歌集』と『土佐日記』をめぐって
第 4回: 和歌から物語へ――『伊勢物語』『大和物語』を中心に
第 5回: 物語史の中の『源氏物語』
第 6回: 『物語』の多様性と歴史性
第 7回: カタカナの展開／説話集の時代――『今昔物語集』の世界観
第 8回: ：軍記物語の展開と『平家物語』
第 9回: 「能」とは何か
第10回: お伽草紙をめぐって
第11回: 和歌・連歌・俳諧――『おくのほそ道』を読む
第12回: 近世文学の展開と井原西鶴
第13回: 上田秋成と読本
第14回: 歌舞伎の展開
第15回: 前半まとめ　日本古典文学史と確認テスト
第16回: 日本近代文学の始まり（二葉亭四迷、尾崎紅葉、樋口一葉など）
第17回: 日本近代文学の始まりと自然主義（島崎藤村、田山花袋など）
第18回: 反自然主義（永井荷風や谷崎潤一郎のような「耽美 派」について）
第19回: 夏目漱石
第20回: 森鷗外
第21回: 芥川龍之介
第22回: 志賀直哉
第23回: 新感覚派について（横光利一、川端康成など）
第24回: プロレタリア文学をめぐって（小林多喜二、中野重治、葉山嘉樹など）
第25回: 宮沢賢治
第26回: 文芸復興期（岡本かの子と林芙美子を中心に）
第27回: 太宰治

第28回: 戦後の文学（野間宏、大江健三郎など）
第29回: 現代の文学（村上春樹、小川洋子ら現代に活躍する作家について）
第30回: 後半まとめ　日本近現代文学史と確認テスト
定期試験

テキスト
教科書名 原色新日本文学史 : ビジュアル解説
著者名　秋山虔, 三好行雄編著
出版社名　文英堂

参考書・参考資料等
参考書名　中学校学習指導要領　総則編
著者名　文部科学省［編］
出版社名　ぎょうせい

参考書名　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

学生に対する評価

定期試験	40%
授業参加度（発表・授業態度等）	20%
授業外学修	20%
確認テスト	20%

授業科目名： 日本文学史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 久岡　明穂 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

(1)日本古典文学作品について、作者・成立・構成・表現・文学的意義を説明できる。
(2)文学作品における表現技法・文学論を説明できる。
(3)文学作品を読解することを通して、作品で描かれる人間の心について自分の考えを述べることができる。

授業の概要

(1)文学作品読解のために必要な基本的な知識と技術を身につける。
(2)文学作品における表現技法・文学論を理解し、作品の読解と鑑賞を行う。

授業計画

第 1回: 文学史の区分・読解の方法
第 2回: 上代（奈良時代まで）文学概観①万葉集と歌謡
第 3回: 上代（奈良時代まで）文学概観②散文
第 4回: 万葉集（大伯皇女の挽歌）①概要と作品の背景
第 5回: 万葉集（大伯皇女の挽歌）②作品の読解
第 6回: 古事記①概要と梗概
第 7回: 古事記②ニニギノミコトの話の読解
第 8回: 古事記③ヒコホホデミノミコトの話の読解
第 9回: 中古（平安時代）文学概観①和歌と漢詩
第10回: 中古（平安時代）文学外観②散文
第11回: 古今和歌集（見立て）①和歌の修辞法
第12回: 古今和歌集（見立て）②作品の読解
第13回: 源氏物語（花の宴）①概要と読解
第14回: 源氏物語（花の宴）①朧月夜との出会い
第15回: 源氏物語（花の宴）②その後の二人
第16回: 源氏物語（花の宴）③再会の場面
第17回: 中世（鎌倉時代・室町時代）文学概観①和歌と歌謡
第18回: 中世（鎌倉時代・室町時代）文学概観②散文
第19回: 新古今和歌集（題詠と本歌取り）①和歌の修辞法
第20回: 新古今和歌集（題詠と本歌取り）②作品の読解
第21回: 平家物語（敦盛の最期）①概要と梗概
第22回: 平家物語（敦盛の最期）②熊谷と敦盛の出会い
第23回: 平家物語（敦盛の最期）③敦盛の死
第24回: 近世（江戸時代）文学概観①俳諧
第25回: 近世（江戸時代）文学概観②散文
第26回: 西鶴諸国ばなし（忍び扇の長歌）①概要と梗概
第27回: 西鶴諸国ばなし（忍び扇の長歌）②作品の読解　大名の姫君と若侍
第28回: 西鶴諸国ばなし（忍び扇の長歌）③作品の読解　その後の二人
第29回: 西鶴諸国ばなし（忍び扇の長歌）④典拠と様々な解釈
第30回: 奥の細道
定期試験

テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書・参考資料等

参考書名	中学校学習指導要領　総則編
著者名	文部科学省［編］
出版社名	ぎょうせい

参考書名	高等学校学習指導要領　総則編
著者名	文部科学省［編］
出版社名	東山書房

学生に対する評価

定期試験	50%
授業外学修	20%
授業参加度	30%

授業科目名： 日本の伝統文化	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： ４単位	担当教員名： 井口　はる菜 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

日本の音楽や伝統芸能の歴史的変遷を学ぶことによって、日本の文学の中に登場する音楽や芸能の場面を理解し味わえるようになる。また、日本の音楽は様々な「うた」の文化と共にあるため、それぞれの歌謡を文芸面、音楽面双方から見つめ、日本の「うた」の特色やその素晴らしさに気づくことができる。日本の文化のルーツを辿り、東アジア文化圏の中にある日本を意識した上であらためて日本文化に注目し、日本の歌謡に対する理解を深める。日本の「うた」や音楽・芸能を鑑賞するのに必要な最低限の基礎知識をしっかりと身に着け、まずは日本語で、更には本学で培った語学力を活かして、次代を担う世代や異文化を有する人々に日本の文化を正しく伝えられるようになることを到達目標とする。

授業の概要

日本文学の中には、日本の音楽や伝統芸能に関する基礎知識と幅広い教養を身につけておくことによってより深く味わうことのできる作品が多くある。本講義では日本の音楽・伝統芸能を中心として、その歴史的変遷や関連ある東アジアの文化・文芸作品・文化財などをも取り上げながら、日本の音楽・芸能について学び、日本の文化についての理解を深めて日本の文学を味わうことを目的とするものである。日本独特の文化になるべく多く接し、誇り高き日本の文化の基礎知識を身につけ、日本の文学に対する意識を高める機会としたい。また日本の伝統音楽の歌詞の内容にも様々な文学作品や有名な和歌が引用されているので、日本の歌謡の発想とその解釈・歌詞における遊び心の妙味・歌い方・歌われる場などを学び、考えることによって、音楽や芸能の味わいを深められるようになる。併せて、日本の歌謡の歴史を学び、日本の「うた」とは何かを考え、本講義で扱う日本の文化をいかにして次世代へ継承していくべきかを考える機会にもしたい。

授業計画

第 1回: 講義全体の概要
第 2回: 雅楽・舞楽①～雅楽の楽器～
第 3回: 雅楽・舞楽②～国風歌舞（『古事記』『日本書紀』に登場する久米歌）～
第 4回: 雅楽・舞楽③～外来の楽舞（四天王寺聖霊会／雅楽由来のことば／慣用句）～
第 5回: 雅楽・舞楽④～平安時代の新作歌曲（催馬楽・朗詠）～
第 6回: 声明の種類と仏教歌謡
第 7回: コトという弦楽器／琴と箏の相違／東アジアの琴箏類
第 8回: 『源氏物語』を読む～登場人物が演奏する楽器とその音楽～
第 9回: 箏の音楽について～越天楽謡物／八橋検校と箏組歌～
第10回: 琵琶楽①～琵琶の歴史を中心に～
第11回: 琵琶楽②～平家琵琶≪那須与一≫鑑賞～
第12回: 中世の芸能・能楽①～能舞台～
第13回: 中世の芸能・能楽②～五番立について／≪隅田川≫鑑賞（『伊勢物語』の古歌を引く）～
第14回: 中世の芸能・能楽③～能の番組の書き方／≪船弁慶≫鑑賞～
第15回: 中世の芸能・能楽④～能と狂言の違い／狂言の楽しみ方を知る／狂言のことば～
第16回: 中世の芸能・能楽⑤～『梁塵秘抄』・狂言歌謡・文部省唱歌に共通する歌の発想と表現について／狂言《蝸牛》鑑賞～
第17回: 三味線について～歴史／三味線音楽の種類／楽器～
第18回: 地歌①～三味線組歌（「さんたまりあ」が歌われる歌の変遷と破手組《下総》）～
第19回: 地歌②～いろいろな曲種（端歌・手事物・作物など）～

第20回: 地歌以外の三味線音楽各ジャンルについて～歌い物と語り物～
第21回: 三味線音楽が用いられる芸能その1　文楽・義太夫節①～情を語る義太夫節／三業一体の芸／時代物・世話物～
第22回: 三味線音楽が用いられる芸能その1　文楽・義太夫節②～人形遣いの技芸／文楽名作鑑賞≪曽根崎心中≫（前半）～
第23回: 三味線音楽が用いられる芸能その1　文楽・義太夫節③～文楽名作鑑賞≪曽根崎心中≫（後半）と近松門左衛門の美文～
第24回: 三味線音楽が用いられる芸能その2　歌舞伎①～「舞」と「踊り」の違い／ややこ踊りからかぶき踊りへ～
第25回: 三味線音楽が用いられる芸能その2　歌舞伎②～歌舞伎鑑賞・荒事と和事の違い～
第26回: 三味線音楽が用いられる芸能その2　歌舞伎③～名作鑑賞≪勧進帳≫～
第27回: 三味線音楽が用いられる芸能その2　歌舞伎④～名作鑑賞・昭和の作品《高坏》／コロナ禍における歌舞伎界の取り組み～
第28回: 三味線音楽が用いられる芸能その2　歌舞伎⑤～新しい時代の歌舞伎／歌舞伎からうまれたことば／歌舞伎とは何か～
第29回: 胡弓と尺八楽
第30回: 明治以降の箏曲界と宮城道雄／総まとめ
定期試験

テキスト
毎回配付する講義資料を中心に授業をおこなう。

参考書・参考資料等
参考書名　中学校学習指導要領　総則編
著者名　文部科学省［編］
出版社名　ぎょうせい

参考書名　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

学生に対する評価
定期試験　50%
レポート　20%
授業態度および意欲・提出物の提出状況　10%
授業外学修および毎時提出課題（ノート）20%

授業科目名： 漢文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 安田(宮原)　真穂 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学		

授業の到達目標及びテーマ

代表的な漢文の講読を通じて、漢文の基礎的な読解力を身につける。

授業の概要

古代から清までに成立した中国文学の諸分野について、その特徴を概観し、日本文学にあたえた影響を考えることを目標とする。

日本において中国文学は古代から近代まで欠かすことができない教養であった。日本文学に大きな影響を与えた中国文学の特徴を歴史的経過をふまえて習得することは、日本文学を学び理解するために必要であり、現代に生きる我々が使う言葉や触れる作品の成り立ちを知ることにも繋がっていく。本講義を通して、日本文学の基底をなす中国文学について学び、「漢文学」の理解を深める。

授業計画

第 1回: 漢文訓読の基本と漢和辞典の使い方を学ぶ
第 2回: 『十八史略』１：『十八史略』について概要を学ぶ
第 3回: 『十八史略』２：著名なエピソードをいくつか選び、重要語や句法、背景知識を確認しながら読む
第 4回: 『史記』１：『史記』について概要を学ぶ
第 5回: 『史記』２：「列伝」（天子・諸侯以外の人々の事跡の記述）から一篇ないし二篇を選び、精読する
第 6回: 『論語』１：孔子および『論語』、儒家思想について学ぶ
第 7回: 『論語』２：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む
第 8回: 『孟子』１：孟子について学ぶ
第 9回: 『孟子』２：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む
第10回: 『荀子』１：荀子について学ぶ
第11回: 『荀子』２：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む
第12回: 『老子』１：老子および道家思想について学ぶ
第13回: 『老子』２：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む
第14回: 『荘子』：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む
第15回: 『桃花源記』：重要語や句法、背景知識を確認しながら読む
定期試験

テキスト

使用しない（適宜、授業中にプリントを配布する）

参考書・参考資料等

参考書名　　中学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　ぎょうせい

参考書名　　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　東山書房

学生に対する評価

定期試験　　80%
授業参加度（発表・授業態度等）　　20%

授業科目名： 書道	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 南條　佳代 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。）		

授業の到達目標及びテーマ

中学校国語科書写の指導内容と方法を理解することをねらいとする。 この授業科目の履修を通じて、受講生が中学校国語科書写の指導内容と方法、必要とされる硬筆及び毛筆の書写能力について理解し、授業計画の立案及び実際の授業ができるようになることを到達目標とする。

授業の概要

中学校国語科書写を中心に、関連する小学校国語科書写、高等学校芸術科書道における指導内容を確認する。また、書写・書道教育の構造を知り、その基礎的な知識と技能を学ぶとともに、文字文化、書文化の歴史についても学んでいく。

授業計画

第 1回: オリエンテーション／中学校国語科書写の指導内容とその問題点
第 2回: 文字の歴史と書写・書道で使用する用具・用材
第 3回: 中学校国語科書写の指導内容と方法① 楷書の特徴とその基本的な書き方（毛筆）
第 4回: 中学校国語科書写の指導内容と方法② 楷書の特徴とその基本的な書き方（硬筆）
第 5回: 中学校国語科書写の指導内容と方法③ 楷書に調和するひらがな・カタカナ（毛筆・硬筆）
第 6回: 中学校国語科書写の指導内容と方法④ 行書の特徴とその基本的な書き方（毛筆）
第 7回: 中学校国語科書写の指導内容と方法⑤ 行書の特徴とその基本的な書き方（硬筆）
第 8回: 中学校国語科書写の指導内容と方法⑥ 行書に調和するひらがな・カタカナ（毛筆・硬筆）
第 9回: 中学校国語科書写の指導内容と方法⑦ 生活に生かす硬筆・毛筆
第10回: 中学校国語科書写の指導内容と方法⑧ 漢字かな交じり書について（創作）
第11回: 中学校国語科書写の指導内容と方法⑨ 創作作品について
第12回: 中学校国語科書写の指導内容と方法⑩ 書き初め指導について
第13回: 学習指導計画の立案①
第14回: 学習指導計画の立案②（承前）
第15回: 授業の総括

テキスト

使用しない(内容に応じて適宜指示する。)

参考書・参考資料等

参考書名　　中学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　ぎょうせい

学生に対する評価

授業内作品・書道鑑賞レポート　70%
授業参加度（発表・学習指導案の作成・授業態度等）　30%

授業科目名： 国語科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ４単位	担当教員名： 石原　雅子、西川　学 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

・中学校および高等学校における国語科教育の理論と実践について基礎的な知識を身につけ、 理解を深める。
・中学校・高等学校の国語科教育の理論並びに実践上の工夫について、具体的な活動を通して検証する。

授業の概要

国語科教員としての姿勢や、中学・高校の学習指導要領の概要など国語科教員として理解しておくべき知識・技能が中心となる。「ことば」を専門にする担い手となるにあたり「国語とは何か」を常に考える姿勢を持ち続ける必要がある。国語の授業を展開するための、入念な教材研究を含めた指導方法の基本を身に付けつけさせるとともに、講義を通じて、ことばへの問題意識を養い、学習指導要領に触れつつ、国語科教育指導の基本がつくようにしていく。また現場では比重が軽くなりがちな「話す・聞く」の授業の実践方法や昨今のICT活用の実施状況も取り上げ、国語科教員としてバランスのとれた基本的能力を養う内容とする。常に現場を意識しながら授業を行っていく。

授業計画

第 1回: オリエンテーション 国語科とはどういう教科か
第 2回: 国語科教育の目的
第 3回: 国語科教育の構造
第 4回: 学習指導要領の変遷と社会の動向
第 5回: 国語学力の基盤
第 6回: 国語科における教材研究
第 7回: 国語科学習指導論(1) 授業設計の方法
第 8回: 国語科学習指導論(2) 授業の技術
第 9回: 国語科学習指導論(3) 国語科の評価
第10回: 学習指導案作成の方法
第11回: 国語科教師の力量形成
第12回: 国語科教育の研究方法と基礎文献
第13回: 国語科教育の現状と課題 ICTの活用
第14回: 国語科教育の展望と未来
第15回: 中間まとめ　確認テスト
第16回: 国語科教育の領域について
第17回: 国語科授業の基礎
第18回: 中学校国語科［思考力、判断力、表現力等］「A話すこと・聞くこと」の指導について
第19回: 中学校国語科［思考力、判断力、表現力等］「Ｂ書くこと」の指導について
第20回: 中学校国語科［思考力、判断力、表現力等］「Ｃ読むこと」の指導について
第21回: 中学校国語科〔知識及び技能〕「言葉の特徴や使い方」
第22回: 中学校国語科〔知識及び技能〕「情報の扱い方」
第23回: 中学校国語科〔知識及び技能〕「我が国の言語文化」
第24回: 高等学校国語科「現代の国語」「論理国語」
第25回: 高等学校国語科「言語文化」「文学国語」
第26回: 高等学校国語科「古典探究」「国語表現」

第27回: 書写の指導内容と指導方法の工夫について
第28回: 学習指導案の作成 国語科の授業研究について
第29回: 新しい指導方法の開発に向けて
第30回: まとめ　確認テスト
定期試験

テキスト
教科書名　『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』
　　『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　国語編』
著者名　　文部科学省
出版社名　東洋館出版社

参考書・参考資料等
参考書名　　中学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　ぎょうせい

参考書名　　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　東山書房

学生に対する評価
定期試験　40%
授業参加度（発表・授業態度等）　20%
授業外学修　20%
確認テスト　20%

授業科目名： 国語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名： 石原　雅子、西川　学
			担当形態：クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

・中学校・高等学校の国語科教育の理論と実践上の工夫について、具体的な活動を通して検証する。
・充実した国語科の授業のあり方について考察し、さらに広い知見を得させ、授業スキルを向上させる。

授業の概要

国語科教員としての姿勢や、中学・高校の学習指導要領の概要など国語科教員として理解しておくべき知識・技能が中心となる。「ことば」を専門にする担い手となるにあたり「国語とは何か」を常に考える姿勢を持ち続ける必要がある。国語の授業を展開するための、入念な教材研究を含めた指導方法の基本を身に付けつけさせるとともに、講義を通じて、ことばへの問題意識を養い、学習指導要領に触れつつ、国語科教育指導の基本がつくようにしていく。また現場では比重が軽くなりがちな「話す・聞く」の授業の実践方法や昨今のICT活用の実施状況も取り上げ、国語科教員としてバランスのとれた基本的能力を養う内容とする。常に現場を意識しながら授業を行っていく。

授業計画

第 1回: オリエンテーション 国語科授業構想の心得
第 2回: 中学校・物語教材 教材研究・先行実践例の調査発表
第 3回: 中学校・説明文教材 教材研究・先行実践例の調査発表
第 4回: 中学校・韻文教材 教材研究・先行実践例の調査発表
第 5回: 高等学校・小説教材 教材研究・先行実践例の調査発表
第 6回: 高等学校・評論教材 教材研究・先行実践例の調査発表
第 7回: 高等学校・古典文学教材 教材研究・先行実践例の調査発表
第 8回: 中学校・文字文化への関心を高める書写授業についての実践検証
第 9回: 中学校・物語教材 ICTを活用した模擬授業実践検証
第10回: 中学校・説明文教材 ICTを活用した模擬授業実践検証
第11回: 中学校・韻文教材 ICTを活用した模擬授業実践検証
第12回: 高等学校・小説教材 ICTを活用した模擬授業実践検証
第13回: 高等学校・評論教材 ICTを活用した模擬授業実践検
第14回: 高等学校・古典文学教材 ICTを活用した模擬授業実践検証
第15回: 中間まとめ　確認テスト
第16回: 国語科教育指導の課題確認
第17回: 主体的対話的深い学びを促す授業の理論と実践
第18回: 討議を促す授業についての先行実践例の調査発表
第19回: 合意形成を促す話し合い活動についての先行実践例の調査発表
第20回: 読書活動を活性化させる言語活動についての先行実践例の調査発表
第21回: 書くことの意欲を高める言語活動についての先行実践例の調査発表
第22回: ICTを活用した言語活動についての先行実践例の調査発表
第23回: メディア・リテラシーを育む言語活動についての先行実践例の調査発表
第24回: 討議を促す授業についての実践検証
第25回: 合意形成を促す話し合い活動についての実践検証
第26回: 読書活動を活性化させる言語活動についての実践検証
第27回: 書くことの意欲を高める言語活動についての実践検証

第28回: ICTを活用した言語活動についての実践検証
第29回: メディア・リテラシーを育む言語活動についての実践検証
第30回: まとめ　確認テスト
定期試験

テキスト
教科書名　『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　国語編』
著者名　文部科学省
出版社名　東洋館出版社
中学校国語科教科書：光村図書『国語1～3』第1学年、第2学年、第3学年（3冊）
高等学校国語科教科書：数研出版『現代の国語』、『言語文化』（2冊）

参考書・参考資料等
参考書名　中学校学習指導要領　総則編
著者名　文部科学省［編］
出版社名　ぎょうせい

参考書名　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

学生に対する評価

定期試験	40%
授業参加度（発表・授業態度等）	20%
授業外学修	20%
確認テスト	20%

授業科目名： 介護等体験実習	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 森田　健宏 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目　（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業の到達目標及びテーマ

・高齢者や障害を有する方等との関わりを通じて、「人権意識の高揚」「いのちの尊さ」を自ら修得できる。
・社会人として相応しい言動や知識、マナー等、教育者として児童生徒の模範となる資質を修得できる。

授業の概要

教職課程における「介護等体験」の目的は、現在及びこれからの学校が「地域に開かれた学校」「地域とともにある学校」として位置づけられる中で、様々な人々との交流が求められ、とりわけ高齢者や障害を有する方との関わりを通じて、「人権意識の高揚」「いのちの尊さ」を感受し、ひいては、児童生徒を育む教育者としての姿勢を修得することである。さらに未来社会を構成する一員として、相応しい知識や技能、態度などを自ら体得することも求める。よって、この授業は、特別支援学校および社会福祉施設での介護等体験の実習と、その事前・事後指導で構成される。なお、専門的な内容に関しては、外部講師を招聘することもある。

授業計画

第 1回: ガイダンス・介護等体験実習とは何か　介護等体験の趣旨や目的についての説明
第 2回: 現場からの学び（１）特別支援学校の教員を招いての学び（演習を含む）
第 3回: 現場からの学び（２）社会福祉施設の職員を招いての学び（演習を含む）
第 4回: 介護等体験実習の事前演習（１）障害（児）者・高齢者への体と心の理解
第 5回: 介護等体験実習の事前演習（２）状況に応じた基本的対応と救急救命の基礎
第 6回: 直前指導と社会人のマナー
第 7回: 介護等体験実習
第 8回: 介護等体験実習
第 9回: 介護等体験実習
第10回: 介護等体験実習
第11回: 介護等体験実習
第12回: 介護等体験実習
第13回: 介護等体験実習
　　} 各支援学校・各社会福祉施設の計画による
第14回: 事後指導（振り返り・グループ活動）
第15回: 事後指導（振り返りとまとめ）

テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書・参考資料等

関西外国語大学　教職課程ハンドブック

学生に対する評価

講義内容の基礎的理解（講義内容に関する理解を問うレポート等を実施）	20%
介護等体験活動（「介護等体験活動」活動記録表および活動報告書）	80%

授業科目名： 学校体験活動	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 森田　健宏 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目　（中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業の到達目標及びテーマ

・学校等で児童生徒と関わる体験を通じて、専門職としての教師の課題についての自覚を深める。
・継続的に活動することで、生徒理解を深め、その支援に関する実践的な知見を深める。
・専門職としての教師の業務のサポートを通して、「チーム学校」の一員としての教職についての知見を深める。

授業の概要

「令和の日本型教育」の理念のもと、学校現場において様々な教育改革が行なわれている。継続的に学校に関わる体験活動を通して、生徒理解を深めると共に，教職への意欲をさらに高めることをめざす。また教育実習事前指導、教育実習に接続することを前提とし，教育実習に向けての心構え及び実践力を養う機会とする。

授業計画

第 1回: 事前学習１ガイダンス「学校体験活動」の概要等説明。学校教育演習のふりかえり(成果と課題)
第 2回: 事前学習２「先生」としての責任と義務・体験活動校の概要・学校体験に入るにあたっての注意事項・学校体験に当たっての各自の目標設定
第 3回: 事前学習３　学校組織について・受講生の想定される対応についての共通理解を図る（情報の扱い、ハラスメント、子ども対応等）
第 4回: 学校体験活動・グループ活動①
第 5回: 学校体験活動・グループ活動②
第 6回: 学校体験活動・グループ活動③
第 7回: 学校体験活動・グループ活動④
第 8回: 学校体験活動・グループ活動⑤
第 9回: 中間報告会
第10回: 学校体験活動・グループ活動⑥
第11回: 学校体験活動・グループ活動⑦
第12回: 学校体験活動・グループ活動⑧
第13回: 学校体験活動・グループ活動⑨
第14回: 学校体験活動・グループ活動⑩
第15回: 体験活動報告会・互いの学び(成果と課題)を交流し、レポートにまとめる
定期試験

テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書・参考資料等

関西外国語大学　教職課程ハンドブック

学生に対する評価

講義内容の基礎的理解（講義内容に関する理解を問うレポート等を実施）　20%
学校体験活動（「学校体験活動」活動記録表および活動報告書）　80%

授業科目名： 法学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ４単位	担当教員名： 安枝　伸雄、廖　修雅
			担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		

授業の到達目標及びテーマ

・基本的人権の概念及び機能について説明することができる。
・憲法が定める統治機構の基本構造を理解し、具体的な解釈上の問題について説得的に論じることができる。

授業の概要

憲法の意義、歴史について概観した後、憲法が保障する基本的人権をめぐる解釈上の諸問題について講義する。また、憲法は権力分立制を採用し、立法・行政・司法の各作用を国会・内閣・裁判所に分担させるとともに、財政や地方自治についても規定をおいている。これらの統治機構をめぐる解釈上の諸問題についても具体的に検討する。

授業計画

第 1回: ガイダンス（受講の際の注意点と講義の全体像）
第 2回: 憲法のしくみ１（法と道徳、法の支配、権力分立）
第 3回: 憲法のしくみ２（国民主権）
第 4回: 憲法のしくみ３（平和主義）
第 5回: 人権とその分類
第 6回: 誰が人権を持っているのか（法人の人権・天皇の人権）
第 7回: 誰が人権を持っているのか（外国人の人権）
第 8回: 人権侵害と具体例（国家対人）
第 9回: 人権保障が大切であるという大原則とその限界１（公共の福祉）
第10回: 人権保障が大切であるという大原則とその限界２
（公務員，刑事施設に収容されている人）
第11回: 新しい人権１（新しい人権とはなにか）
第12回: 新しい人権２（新しい人権にあたるかの判断基準）
第13回: 表現の自由１（表現の自由の保障）
第14回: 表現の自由２（表現の自由の限界）
第15回: 人権保障が大切であるという大原則とその限界３
（人と人との間で人権はどう扱われるか）
第16回: 表現の自由と名誉権の調整
第17回: ヘイトスピーチ
第18回: 表現の自由３（二重の基準）
第19回: 中間テスト、基本知識の確認
第20回: 法の下の平等
第21回: 思想・良心の自由
第22回: 信教の自由１（信教の自由の保障、政教分離）
第23回: 信教の自由２（信教の自由の限界、政教分離の例）
第24回: 経済的自由
第25回: 人身の自由
第26回: 生存権
第27回: 学問の自由，教育に関する人権
第28回: 選挙権，地方自治

第29回: 総合１（人権）
第30回: 総合２（全体）

テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書・参考資料等
参考書名　条文の読み方（第2版）
著者名　　法制執務・法令用語研究会
出版社名　有斐閣

参考書名　憲法（第7版）
著者名　　芦部信喜、高橋和之
出版社名　岩波書店

学生に対する評価
小テストまたは中間テスト　90%
授業への参加度　10%

授業科目名： スポーツ健康科学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 相良　博昭 他５名 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		

授業の到達目標及びテーマ

技能の習得だけでなく、生涯スポーツの理論を通してライフスタイルをより豊かに、より満足なものとするための資源としての健康を、実践を通して探求する。

授業の概要

心身発育の成熟期に行う大学体育は、身体教育及び人格形成、体力・運動能力・技能の向上といったこれまでの目的とは、異なる点が重要視されると考える。その目的とは、次の３つに集約される。

① スポーツ実践を通した心身の健康維持増進
② スポーツ活動の習慣化と生涯にわたっての継続的実践の基盤作り
③ 自主的かつ主体的な授業への取り組みと友人との積極的交流

これまで、幼少期より継続して行ってきた体育は、好き嫌いに関わらず、与えられた場面をこなすいわゆる受動的なものであったと言える。しかし青年期からの運動実践は、各自の自主性・主体性が重視される。したがってその移行期として本講座を位置づけ、「やらされる（受け身）体育」ではなく、「自ら行う（積極的）体育」とすることを望む。

授業計画

第 1回: スポーツ健康科学ガイダンス
第 2回: こころと身体を動かす、レクリエーションゲーム（交流を深める）
第 3回: 体育館種目（バドミントン）　バドミントン①　基本技術・ルールの確認
第 4回: バドミントン②　基本技術・ルールの確認と徹底　練習ゲーム
第 5回: バドミントン③　ダブルスゲーム　１ゲームごとペア交代
第 6回: バドミントン④　ダブルスゲーム　固定ペアによるコンビネーションプレイ
第 7回: バドミントン⑤　ダブルスゲーム　固定ペアによるグループリーグ戦
第 8回: バドミントン⑥　トーナメントゲーム　リーグ戦の続き、決勝トーナメント
第 9回: バドミントン⑦　トーナメントゲーム　新ペア編成、グループリーグ戦
第10回: 講義①　こころとからだの健康　健康とは何か？
　　健康と体力について第11回: 新しい人権１（新しい人権とはなにか）
第11回: 体育館種目（バレーボール））バレーボール①
　　レシーブ、トス、アタック、サーブなど基本技術の確認、簡易ゲーム
　　実技テスト内容の確認
第12回: バレーボール②　基本技術・ルールの確認と徹底　練習ゲーム
第13回: バレーボール③　基本技術の確認、リーグ戦グループの編成、実技テスト内容の確認
第14回: バレーボール③　基本技術の確認、リーグ戦グループの編成、実技テスト内容の確認
第15回: バレーボール⑤　リーグ戦２日目
第16回: バレーボール⑥　リーグ戦３日目、決勝トーナメント
第17回: バレーボール⑦　グループ再編成、各グループごとに基本技術及び戦術を話し合う
第18回: バレーボール⑧　リーグ戦１日目　１セットマッチあるいは３セットマッチ
第19回: バレーボール⑨　リーグ戦２日目　ポジションごとの役割を理解する
第20回: バレーボール⑩　リーグ戦３日目　サーブレシーブを徹底し攻撃につなげる
第21回: バレーボール⑪　リーグ戦４日目　決勝トーナメント
第22回: バレーボール⑫　実技テスト（４～５名での円陣パス）
第23回: 屋外種目（硬式テニス）硬式テニス①

ラケットの握り方、フォーム、ショートラリーからラリーへ
第24回: 硬式テニス②　基本技術の確認　ストロークラリー、ボレーボレー
第25回: 硬式テニス③　ストロークラリー、サーブ、試合の進め方　練習ゲーム
第26回: 硬式テニス④　ルールの徹底、ダブルスゲーム
第27回: 硬式テニス⑤　ダブルスゲーム　試合の進め方を理解する
第28回: 講義②　体育・スポーツの変遷、大学生の総合教育科目としての体育とは？
第29回: 講義③　生涯スポーツ、実技記録帳（レポート）提出
第30回: 総合評価　実技記録帳（レポート）返却
（全体あるいは個別に記録帳を見返してのフィードバック

テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書・参考資料等
なし

学生に対する評価

積極的授業参加度（参加態度・積極性等）	60%
実技記録帳（またはレポート）	20%
実技技能テスト（講義リフレクションペーパー含む）	20%

授業科目名： Communication in English IV	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： エスゲラ　マイケル 他５名
			担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		

授業の到達目標及びテーマ

Upon completion of this course, students will be able to…

1.Participate actively in discussions and paraphrase discussions, including confidently asking questions and raising objections.

2.Paraphrase discussions.

3.Give a 6 to 7-minute informative presentation about a topic they have researched.

4.Take notes on, understand, and paraphrase the main points of a 10-minute talk delivered in English.

1. 積極的にディスカッションに参加をし、自信を持って質問したり意義を唱えたりできる
2. 議論を別の表現で言い換えることができる
3. 調べたことについて6分～7分のプレゼンテーションができる
4. 10分間の英語を聞き取り、理解をして、重要なポイントを別の表現で言い換えることができる

授業の概要

This course continues to develop students' ability to use English for communicative purposes. Students will increase their fluency and accuracy in understanding and producing spoken English. They will be confident in their English speaking and listening skills. Students will continue to use their English reading and writing skills to develop vocabulary and familiarity with the language across a variety of topics. They will use their English skills to find information about a topic and incorporate that information into an informative presentation.

この授業では、Communication in EnglishⅠ～Ⅲの発展科目として、学生のスピーキングの流暢さ・正確さを磨き上げ、より一層のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、様々なトピックについてのリーディングやライティングを通して語彙力の向上も目指す。英語を使って様々な情報を調べ、それらを組み合わせて、自信を持って英語でプレゼンテーションができるようになる。

授業計画
第 1回:オリエンテーション
第 2回:Unit 5: Global Countdown　世界のカウントダウン 気候変動
第 3回:Unit 5: Global Countdown　世界のカウントダウン 温暖化
第 4回:Unit 5: Global Countdown　世界のカウントダウン 原因と効果
第 5回:Unit 5: Global Countdown　世界のカウントダウン 環境問題
第 6回:Unit 5: Global Countdown　世界のカウントダウン ボキャビル
第 7回:Unit 5: Global Countdown　世界のカウントダウン プレゼンテーション(グループ１)
第 8回:Unit 5: Global Countdown　世界のカウントダウン プレゼンテーション(グループ２)
第 9回:Unit 6: Our Digital Life　デジタルの世界　サイバー犯罪
第10回:Unit 6: Our Digital Life　デジタルの世界　オンライン詐欺
第11回:Unit 6: Our Digital Life　デジタルの世界　オンラインでの安全性
第12回:Unit 6: Our Digital Life　デジタルの世界　デジタル・フットプリント
第13回:Unit 6: Our Digital Life　デジタルの世界　プレゼンテーション(グループ１)
第14回:Unit 6: Our Digital Life　デジタルの世界　プレゼンテーション(グループ２)
第15回:Review　ふりかえり
第16回:Unit 7: Less is More　少ないほうが豊か　ボキャビル
第17回:Unit 7: Less is More　少ないほうが豊か　逆の選択
第18回:Unit 7: Less is More　少ないほうが豊か　グラハムヒル
第19回:Unit 7: Less is More　少ないほうが豊か　ハッピー・プラネット・インデックス
第20回:Unit 7: Less is More　少ないほうが豊か　コスタリタリカ
第21回:Unit 7: Less is More　少ないほうが豊か　プレゼンテーション(グループ１)
第22回:Unit 7: Less is More　少ないほうが豊か　プレゼンテーション(グループ２)
第23回:Unit 8: Explore Everyday　日々の探求　ボキャビル
第24回:Unit 8: Explore Everyday　日々の探求　創造的な毎日
第25回:Unit 8: Explore Everyday　日々の探求　創造的な心の状態
第26回:Unit 8: Explore Everyday　日々の探求　TED TALKS
第27回:Unit 8: Explore Everyday　日々の探求　クリエイティブな著名人の日々の習慣
第28回:Unit 8: Explore Everyday　プレゼンテーション(グループ１)
第29回:Unit 8: Explore Everyday　プレゼンテーション(グループ２)
第30回:Review　まとめ
定期試験

テキスト
21st Century Communication 2B
Jessica Williams
Cengage Learning

参考書・参考資料等
なし

学生に対する評価

定期試験	20%
授業外学修	15%
プレゼンテーション	20%
ディスカッション	20%
ノートテイキング	10%
授業参加度	15%

授業科目名： デジタルリテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 友成　典子 他１２名
			担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		

授業の到達目標及びテーマ

①コンピューターを取り巻くさまざまな技術についての基本的な知識を身に付ける。
②コンピューターの基本操作と、より速く正確なタイピングができるようになる。
③ワープロソフトを使って、レポートやビジネス文書が作成できるようになる。
④インターネットを利用して効率よく情報検索ができるようになる。
⑤電子メールの基本的なマナーが身につき、円滑に活用できるようになる。
⑥プレゼンテーションソフトを使って、プレゼン用のスライドを作成できるようになる。
⑦表計算ソフトを使って、基本的な計算式を含む表や、グラフを作成できるようになる。
また、データベース機能を活用できるようになる。

授業の概要

この科目はパソコンの実習科目で、OSは『Windows』を用いて演習を行う。

春学期は、コンピューターを扱う上で知っておくべき知識を習得する。演習ではタイピング練習によってキーボード入力をトレーニングし、ワープロソフト（Word）を用いてレポートやビジネス文書作成技能を身につける。また、効率よくWebページを検索する方法や電子メールの使い方についても学習する。

秋学期は、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いたスライド作成について学習する。また、表計算ソフト（Excel）を用いて表やグラフの作成、データベースの活用方法を習得し、企業などにおける複雑なデータ処理につながる基礎技能を身に付ける。

１年間を通して、情報化社会に対応し得る基本的な知識や技能を身につけ、大学や企業で求められるPCソフトの使い方を習得する。

授業計画

第 1回: コンピューターの基礎（デジタルとアナログ・情報の単位）
Windows 基本操作　Webページの検索
第 2回: コンピューターの基礎（コンピューターのメカニズム）
Windows ファイル管理
第 3回: コンピューターの基礎（ハードウェア）
タッチタイピング・文字の入力
第 4回: コンピューターの基礎（OS・アプリケーションソフトウェア）
メールの利用
第 5回: コンピューターの基礎（アルゴリズム・プログラミング言語）
Word 基本操作・英文入力
第 6回: コンピューターの基礎（インターネットの仕組み）
Word 日本語文章入力
第 7回: コンピューターの基礎（データ通信の仕組み）
Word ページレイアウト
第 8回: Word 文字書式
第 9回: Word 段落書式
第10回: Word 日本語ビジネス文書
第11回: Word 表の作成
第12回: Word 表の編集
第13回: Word 総合演習（文書の作成）

第14回: Word 総合演習（文書の編集）
第15回: Word 補足
第16回: PowerPoint 基本操作・図表の挿入と編集
第17回: PowerPoint アニメーション効果・スライドショーの実行
第18回: Excel 基本操作・四則計算
第19回: Excel 関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT）
第20回: Excel ページ設定・セルの書式設定
第21回: Excel セルの参照
第22回: Excel 関数（RANK.EQ・IF）
第23回: Excel 関数（COUNTA・TODAY）
第24回: Excel グラフ作成の基本
第25回: Excel グラフ要素の追加と削除
第26回: Excel グラフ要素の書式設定
第27回: Excel データベースの活用
第28回: Excel 総合演習（表作成）
第29回: Excel 総合演習（グラフ・データベース）
第30回: Excel 補足

テキスト
なし

参考書・参考資料等
教科書名　情報リテラシー
著者名　　PMC委員会
出版社名　PMC　株式会社パーソネル・マネジメント・センター

学生に対する評価
実技テスト　30%
提出課題の評価　40%
授業への積極的参加度　30%

授業科目名： 教育基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 宮本　慧、吉田　武男 担当形態： クラス分け・オムニバス
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

授業の到達目標及びテーマ

(1) 学生が、教育の本質、特に教育とは何か、また何を目的として行うのかを理解することができる。
(2) 学生が、教育に関わるさまざまな考え方についてその概要を理解し、教育思想の源流を理解することができる。
(3) 学生が、教育目標を達するために、どのような内容を、どのように組織・編成し、どう行うかを理解することができる。
(4) 学生が、教育を行う任務を持った教師が、どのような専門性を持ち、どうあるべきかを理解することができる。

授業の概要

本講義は、教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解するものである。

その目標を達成するために、この授業では、最初に、教育学の基礎基本として、「教育」の定義や本質・理念について、そして人間の発達およびその研究の諸理論について学ぶことになる。それに続いて、現代の教育を基本的・俯瞰的に理解するために、古代・中世から近代・現代までにわたって、西洋および日本の教育史の流れについて知ることになる。その際に、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、デューイらの思想や活動についての学習を通して、現代教育の基礎となっている近代教育思想および学校教育成立の大きな流れについて深く理解する。次に、現代の学校や学習に関わる教育の思想を理解するために、教育法規を手がかりにしながら教育・学校のシステムの概要を把握したうえで、学校教育における「訓育」と「教授」を学ぶことになる。その際に、「訓育」については、生徒指導を中心に道徳教育と特別活動を取りあげ、「教授」については、教育課程の意義と編成を含めたカリキュラムの基礎知識を踏まえたうえで、教科教育や総合的な学習（探究）の時間などを行う際の基準となる学習指導要領を手がかりにしながら、学校における学習指導を理解する。最後にそれまで学んだ知見を基盤にして、特に人権尊重の教育と特別支援教育を含めながら、現代の教育課題（学校安全教育、消費者教育、環境教育、情報教育など）の解決策について考える。

授業計画

第 1回: オリエンテーション（担当：宮本・吉田）
第 2回: 教育の概念と理念（担当：吉田）
第 3回: 人間の発達とその理論（担当：吉田）
第 4回: 古代・中世・近世の教育（西洋）（担当：吉田）
第 5回: 近代の教育（西洋）（担当：吉田）
第 6回: 現代の教育（西洋）（担当：吉田）
第 7回: 古代・中世・近世の教育（日本）（担当：吉田）
第 8回: 近代の教育（日本）（担当：吉田）
第 9回: 現代の教育（日本）（担当：宮本）
第10回: 現代の教育・学校のシステム：教育法規を手がかりにして(教育基本法を中心に)（担当：宮本）
第11回: 現代の教育・学校のシステム：教育法規を手がかりにして(学校教育法・学校教育法施行規則を中心に)（担当：宮本）
第12回: 学校教育における訓育：生徒指導を中心に（担当：宮本）
第13回: 学校教育における教授：学習指導要領を手がかりにして（担当：宮本）

第14回: 現代の教育課題：人権尊重の教育を中心に（人権教育・特別支援教育・安全教育などを含めて）（担当：宮本）
第15回: 授業の補足とまとめ（担当：宮本）
定期試験

テキスト
教科書名　教職教養
著者名　　東京教友会[編]
出版社名　TAC出版

参考書・参考資料等
参考書名　　中学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　ぎょうせい

参考書名　　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　東山書房

学生に対する評価
定期試験　50%
小テストまたは中間テスト　20%
レポート　10%
授業外学修　20%

授業科目名： 教育基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山口　理沙 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

授業の到達目標及びテーマ

(1) 学生が、教育の本質、特に教育とは何か、また何を目的として行うのかを理解することができる。
(2) 学生が、教育に関わるさまざまな考え方についてその概要を理解し、教育思想の源流を理解することができる。
(3) 学生が、教育目標を達するために、どのような内容を、どのように組織・編成し、どう行うかを理解することができる。
(4) 学生が、教育を行う任務を持った教師が、どのような専門性を持ち、どうあるべきかを理解することができる。

授業の概要

本講義は、教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解するものである。

その目標を達成するために、この授業では、最初に、教育学の基礎基本として、「教育」の定義や本質・理念について、そして人間の発達およびその研究の諸理論について学ぶことになる。それに続いて、現代の教育を基本的・俯瞰的に理解するために、古代・中世から近代・現代までにわたって、西洋および日本の教育史の流れについて知ることになる。その際に、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、デューイらの思想や活動についての学習を通して、現代教育の基礎となっている近代教育思想および学校教育成立の大きな流れについて深く理解する。次に、現代の学校や学習に関わる教育の思想を理解するために、教育法規を手がかりにしながら教育・学校のシステムの概要を把握したうえで、学校教育における「訓育」と「教授」を学ぶことになる。その際に、「訓育」については、生徒指導を中心に道徳教育と特別活動を取りあげ、「教授」については、教育課程の意義と編成を含めたカリキュラムの基礎知識を踏まえたうえで、教科教育や総合的な学習（探究）の時間などを行う際の基準となる学習指導要領を手がかりにしながら、学校における学習指導を理解する。最後にそれまで学んだ知見を基盤にして、特に人権尊重の教育と特別支援教育を含めながら、現代の教育課題（学校安全教育、消費者教育、環境教育、情報教育など）の解決策について考える。

授業計画

第 1回: オリエンテーション
第 2回: 教育の概念と理念
第 3回: 人間の発達とその理論
第 4回: 古代・中世・近世の教育（西洋）
第 5回: 近代の教育（西洋）
第 6回: 現代の教育（西洋）
第 7回: 古代・中世・近世の教育（日本）
第 8回: 近代の教育（日本）
　　中間テスト
第 9回: 現代の教育（日本）
第10回: 現代の教育・学校のシステム：教育法規を手がかりにして(教育基本法を中心に)
第11回: 現代の教育・学校のシステム：教育法規を手がかりにして(学校教育法・学校教育法施行規則を中心に)
第12回: 学校教育における訓育：生徒指導を中心に
第13回: 学校教育における教授：学習指導要領を手がかりにして
第14回: 現代の教育課題：人権尊重の教育を中心に（人権教育・特別支援教育・安全教育などを

含めて) 第15回: 授業の補足とまとめ 定期試験
テキスト 教科書名　教職教養 著者名　　東京教友会[編] 出版社名　TAC出版
参考書・参考資料等 参考書名　　中学校学習指導要領　総則編 著者名　　文部科学省［編］ 出版社名　　ぎょうせい 参考書名　　高等学校学習指導要領　総則編 著者名　　文部科学省［編］ 出版社名　　東山書房
学生に対する評価 定期試験　50% 小テストまたは中間テスト　20% レポート　10% 授業外学修　20%

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 高柳　真人、福永　光伸 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

「教職とは何か」を深く考察する。教職は生徒の成長を喜びとする仕事である。「教職」に熱い志をもち、モチベーションを高め、生涯教師としての誇りを持ち、そのための勉学に傾注できるようにする。

本科目では、教職の意義、教員の資質・能力、教員養成、教員研修、服務等について総合的に学ぶ。

教師は人間を育てるという重要な使命を担う。したがって、教職を志すみなさんはその使命を十分に理解し、それなりの覚悟が求められる。教職科目を履修する以上は、それに相応しい資質と能力を多角的な見地から磨く。

授業の概要

教職についての理解を深めるとともに、教育者に相応しい資質の向上を目ざす。教育者に相応しい資質とは、①豊かな人間性、②幅広い社会性、③実践的な専門性、④教育愛(情熱と熱意)、及びゆるぎない教育的使命感のことである。

そのために、基本的生活習慣と基礎的学力(学ぶ力)を確実に身に付ける。

授業計画

第 1回：ガイダンス　教職への道　その目標と目的
第 2回：教職への道　教師になることの意味、三重の教養
第 3回：教員養成制度　教員免許制度の意義　教育実習の位置と内容
第 4回：教員採用制度　「選考」としての教員採用　採用の実態
第 5回：教員研修制度　教員研修の意義　初任者研修　10年目研修
第 6回：学校における教職員の多様化　専門性の多様化と協働
第 7回：教師の職務　教師の仕事の多面性
第 8回：教師力と資質　教師の専門性（レポート）
第 9回：教師の専門性と力量形成
第10回：教師の力量　授業力と指導力
第11回：指導力不足教員と分限処分
第12回：教員の服務規程と懲戒処分(体罰の禁止等)
第13回：チーム学校への対応（学校経営）、学校経営計画とマネージメント
第14回：チーム学校への対応（開かれた学校づくり）、学校評価
第15回：補足とまとめ
定期試験

テキスト

毎時間、講義資料等を準備しますので、教科書は使用しません。

参考書・参考資料等

参考書名　　教職概論
著者名　　佐藤晴雄
出版社名　　学陽書房

参考書名　　中学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　ぎょうせい

参考書名　　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］

出版社名　　東山書房
学生に対する評価 定期試験　50% 授業参加状況（発表・課題作成・授業態度等）　50%

授業科目名： 教育制度概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大谷　奨、ﾁｬｸﾙ, ﾑﾗｯﾄ 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

(1)　学生が社会集団や組織の教育的役割を特に学校を中心に理解できるようになる。
(2)　学生が、現在の日本の教育制度(特に学校教育制度）が形成されてきた経緯、改変、現状、改革の動向などを、主要国の制度と比較しつつ理解できるようになる。
(3)　学生が、我が国の教育法規の体系、主要教育法規を理解し、それらを基礎に、教育行政制度、学校教育制度、教職員制度などを理解できるようになる。
(4)　学生が、学校において効率的・効果的に教育を実施するために必要な経営上の問題について、その理念、必要性、作用の実際などについて理解できるようになる。

授業の概要

本講義は、教育制度(特に学校教育制度)の基本原理を、歴史的発展、比較考察を踏まえて明らかにし、21世紀における発展・改革の方向やそのあり方について検討するとともに、その社会システム上の位置や意味を明らかにすることを目的とする。同時にこうした制度理念を具体的に学校段階で実施し、学校教育の目的を効率的・効果的に実現するために必要な学校経営にかかわる基本的知識や技法についても講義する。したがって、本講義では、我が国及び世界主要国における教育制度が、どのような社会的・経済的背景と経緯のもと成立してきたか、また、それは現在どのような原理にもとづいて組織されているか、さらに今日どのように改革され、変化しようとしているか、また特にこうした政策理念や目的を学校段階において具体的に実施するために、どのような経営技法が必要か等について論じる。

授業計画

第 1回：ガイダンス、教育制度を学ぶにあたって(公教育、対象範囲、学ぶ意義)、社会集団および組織の教育的役割の一つとしての学校
第 2回：学校の本質と役割、ないし機能(学校の概念、特質、社会システム上の位置、主要な役割、地域との連携)
第 3回：欧米における近代公教育制度の成立と発展
第 4回：欧米における近代学校教育制度の改変と教育保障体制の成立・発展
第 5回：欧米における主要国の学校教育制度改革の動向とその基本原理
第 6回：日本における近代学校教育制度成立と発展
第 7回：日本における第2次大戦後の学校教育制度の改革とその発展
第 8回：近年の日本の教育改革の動向とその特質、子どもをとりまく環境の変化
中間テスト
第 9回：我が国現行法規の体系と主要教育関係法規
第10回：教育行政制度の概要と関係法規（中央、地方教育行政制度、教育委員会と学校の関係など)
第11回：学校教育に関わる諸事項と関係教育法規(特に学校安全、学習指導要領、教育課程の編成、教科書、補助教材など)
第12回：教職員をめぐる諸問題と関係教育法規
第13回：学校経営の基本概念、理念、仕組みその発展の経緯
第14回：学校経営の基本ミッションの確立と経営目標の設定、戦略の決定、組織づくり、学級経営、学校安全への対応
第15回：学校経営目標の達成に向けた教職員及び、その他機関との共同活動、地域との連携、実施、実施後の評価改善。教育制度をめぐる諸問題の総まとめ
定期試験

テキスト

授業の都度必要な講義資料及び参考資料を配布する。また講義の進み具合に応じて適宜参

考文献を紹介する。
参考書・参考資料等 参考書名　新しい時代の教育制度と経営 著者名　岡本徹　佐々木司　編著 出版社名　ミネルヴァ書房 参考書名　教育小六法 著者名　市川須美子他 出版社名　学陽書房 参考書名　中学校学習指導要領　総則編 著者名　文部科学省［編］ 出版社名　ぎょうせい 参考書名　高等学校学習指導要領　総則編 著者名　文部科学省［編］ 出版社名　東山書房
学生に対する評価 定期試験　50% 小テストまたは中間テスト　30% 授業外学修　20%

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 森田　健宏、末永　叔子 担当形態：クラス分け・単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業の到達目標及びテーマ

　教育実践において、児童・生徒を適切に理解し、発達や個人の特性に応じた指導法を習得すると共に、集団を対象とした指導のあり方について最適な方法を考え出すことができる。

授業の概要

　教育心理学は教育の対象となる児童・生徒の心の理解と教育実践のための指導法を探求する学問である。本講義は人間を理解し、より良い方向に導くために必要な基礎的知識・方法（教育への適用・実践）を身につけることを目標とする。

　そのために必要な知識として、基礎的領域では記憶・学習・動機づけ・発達、分析手法を含むパーソナリティ・創造性・知能、そして問題行動の理解につながる不適応行動等について詳説する。その後、教育実践に必要な集団心理の要件および指導法を身に付ける。

授業計画

第 1回：ガイダンス　教育心理学の研究史
第 2回：発達（1）：胎児期及び乳幼児期の発達
第 3回：発達（2）：児童期の発達
第 4回：発達（3）：青年期及び成人期以降の発達
第 5回：学習（1）：学習理論（条件付け・洞察学習など）
第 6回：学習（2）：学校教育と学習（動機付けなど）
第 7回：学習（3）：認知心理学の考え方に基づく学習支援
第 8回：性格の理解と捉え方
第 9回：知能の理解と捉え方
第10回：障害のある児童､生徒の発達理解
第11回：特別支援教育と個に応じた学習指導のあり方
第12回：学級集団の心理と理解及び教師のリーダーシップ性
第13回：児童生徒の適応・不適応と教育支援
第14回：学習指導法と教育評価のあり方
第15回：授業のまとめと教育心理学の新たな知見
定期試験

テキスト

教科書名　よくわかる！教職エクササイズシリーズ第２巻「教育心理学」
著者名　　田爪宏二
出版社名　ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

参考書名　　中学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　ぎょうせい

参考書名　　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　　東山書房

学生に対する評価

定期試験　　60%
レポート　　40%

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 区　潔萍、堅田 利明 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

授業の到達目標及びテーマ

（通常の学級に在籍する）特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒に対する適切な支援や指導のための教材･教具，環境整備等の有効性や改善点を議論し、家族への支援を含めた多面的な児童生徒への支援の在り方について理解を深める。

授業の概要

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の障がいなどの特性を理解し、「自立と社会参加」に向けて、生活や学習上の適切な支援のために必要な知識・技能・態度等を培う。

授業計画

第 1回：本講義のガイダンス（講義概要・到達目標・注意事項・評価基準の解説）、家族支援
第 2回：障がいのある人の暮らし
第 3回：特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の教育の歴史と現行制度 、特別支援教育の推進
第 4回：特別な教育的ニーズのある障がいのない幼児・児童・生徒への対応
第 5回：心身の発達、通級による指導等様々な学びの場の形態や内容、自立活動
第 6回：発達障がいのある幼児・児童・生徒に対する理解と支援および指導計画の作成
第 7回：言語障がいのある幼児・児童・生徒に対する理解と支援および指導計画の作成
第 8回：中間報告①（レポートの発表・提出）
第 9回：知的障がい児や肢体不自由児に対する理解と支援および指導計画の作成
第10回：聴覚障がい児や視覚障がい児に対する理解と支援および指導計画の作成
第11回：中間報告②（レポートの発表・提出）
第12回：教育相談（幼児・児童・生徒）と合理的配慮、就労支援
第13回：きょうだい支援、多職種連携と支援体制の構築
第14回：保護者支援、多職種連携と支援体制の構築
第15回：全学修のまとめの報告（レポートの発表・提出）
定期試験

テキスト

毎講義時に次回の講義内容に関する資料（ハンドアウト、参考資料等）を配布します。

参考書・参考資料等

参考書名　特別支援を難しく考えないために 支援教育が子ども達の心に浸透するように
著者名　　堅田利明
出版社名　海風社

参考書名　特別支援教育総論 インクルーシブ時代の理論と実践
著者名　　川合紀宗・若松明彦・田口辰巳
出版社名　北大路書房

参考書名　中学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　ぎょうせい
参考書名　高等学校学習指導要領　総則編
著者名　　文部科学省［編］

出版社名　東山書房	
学生に対する評価	
定期試験	30%
中間報告レポート２回	30%
全学修のまとめの報告レポート	10%
学修のふり返りシート	30%

授業科目名： 教育課程の意義と編成	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 笹野　恵理子、 安藤(川上)　福光 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

(1) 現代日本の学校における教育課程について、それを支える考え方や法制、実際の編成・実施・評価の方法を、歴史と国際比較の二つの視点から説明できるようになる。
(2) カリキュラムおよび教育課程という概念の成立と発展について学ぶ。
(3) 我が国の教育課程をめぐる制度と学習指導要領の改訂について歴史的に概観する。
(4) 教育課程の基準である学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価および改善の実際について学ぶ。
(5) 諸外国の教育課程と比較することにより我が国の教育課程の特質を知る。

授業の概要

教育課程とは何か、教育課程とカリキュラムの概念について理解し、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解する。各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。

授業計画

第 1回：Introduction 教育課程とは何か、テーマ：教育課程について学ぶ意義、
　　キーワード：教育課程　カリキュラム　グループ決め
第 2回：カリキュラムと教育課程、テーマ：「教育自分史」の発表とディスカッション、
　　キーワード：教育課程　カリキュラム　教育自分史
第 3回：教育課程と学習指導要領、テーマ：学習指導要領とは何か、
　　キーワード：学習指導要領　発表に向けてのGW
第 4回：教育課程の歴史的変遷（１）、テーマ：学習指導要領の歴史的変遷、被教育経験のライフヒストリーとディスカッション
　　キーワード：学習指導要領試案～ゆとりの教育
第 5回：教育課程の歴史的変遷（２）、テーマ：学習指導要領の歴史的変遷、被教育経験のライフヒストリーとディスカッション
　　キーワード：「生きる力」～「資質・能力」
第 6回：諸外国のカリキュラム、テーマ：諸外国のカリキュラムとディスカッション、
　　キーワード：ナショナル・カリキュラム　PISA TIMSS
第 7回：21世紀のカリキュラム、テーマ：21世紀に標榜されるカリキュラムとは何か、
　　キーワード：SDGs 命の教育　市民性教育　マイノリティーの教育　貧困
第 8回：総括、テーマ：カリキュラム・マネジメントを考える
　　キーワード：カリキュラム・マネジメント　まとめ
定期試験

テキスト

教科書名　教育内容・方法
著者名　　根津朋実, 樋口直宏編著
出版社名　培風館

参考書・参考資料等

参考書名　中学校学習指導要領　総則編（最新版）
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

参考書名　高等学校学習指導要領　総則編（最新版） 著者名　　文部科学省［編］ 出版社名　東山書房
学生に対する評価 授業課題のグループ発表　30% 授業内レポート　　30% 授業における小課題　　40%

授業科目名： 道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 太田　和男、宮本　慧 担当形態：クラス分け・単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		

授業の到達目標及びテーマ

(1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。
(2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。
(3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。
(4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
(5) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。
(6) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している
(7) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。

授業の概要

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

授業計画

第 1回：オリエンテーション　及び　学校における道徳教育と道徳科の時間
第 2回：現代社会と道徳教育
第 3回：いま、教育の改革に求められていること
第 4回：道徳教育とは
第 5回：学習指導要領改訂の歩み
第 6回：内容項目の理解とその活用（内容項目と子ども理解）
第 7回：道徳教育の計画（全体計画・年間指導計画など）
第 8回：道徳教育と体験活動
第 9回：道徳科の構想①（学習指導案など）
第10回：道徳科の構想②（多様な授業展開）
第11回：道徳科の学習指導案の作成①（学習展開の要点）
第12回：道徳科の学習指導案の作成②（発問、板書など）
第13回：道徳科の学習指導案の作成③（学習評価）
第14回：模擬授業および学習評価について
第15回：補足とまとめ
定期試験

テキスト

教科書名　『四訂　道徳教育を学ぶ人のために』
著者名　　小寺正一・藤永芳純・伊藤啓一
出版社名　世界思想社

参考書・参考資料等

参考書名　中学校学習指導要領解説　道徳編（最新版）
著者名　　文部科学省
出版社名　教育出版

学生に対する評価	
定期試験	50%
授業参加度（発表・学習指導案の作成・授業態度等）	50%

授業科目名： 総合的な学習の時間の理論と実践	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 高柳　真人、宮本　慧 担当形態：クラス分け・単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		

授業の到達目標及びテーマ

（1）総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
（2）総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につける。
（3）総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

授業の概要

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目ざすものである。本授業では、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、総合的な学習の時間の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業計画

第 1回：総合的な学習の時間の概観
第 2回：総合的な学習の時間の歴史
第 3回：総合的な学習の時間の特質
第 4回：総合的な学習の時間の目標と評価
第 5回：実践事例　中学校における総合的な学習の時間
第 6回：総合的な学習の時間の指導計画・単元計画の構想
第 7回：総合的な学習の時間の指導案作成
第 8回：まとめ

テキスト

必要な資料は授業で配布する。

参考書・参考資料等

参考書名　中学校学習指導要領　総合的な探究の時間編（最新版）
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

参考書名　高等学校学習指導要領　総合的な探究の時間編（最新版）
著者名　　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

学生に対する評価

小テストまたは中間テスト　40%
レポート　60%

授業科目名： 特別活動の理論と実践	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 太田　和男、高柳　真人、 森田　健宏 担当形態：クラス分け・単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		

授業の到達目標及びテーマ

(1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
(2) 教育課程における特別活動の位置づけと各教科等との関連を理解している。
(3) 学級活動・生徒会活動・学校行事の特質を理解している。
(4) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。
(5) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。
(6) 合意形成に向けた話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

授業の概要

特別活動は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動である。

学習指導要領に示されている中学校・高等学校の特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、生徒の発達段階の違いによる活動の変化、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などとの関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画

第 1回：オリエンテーション：授業の概要と留意事項等の説明
第 2回：「特別活動とは何か」（特別活動の特質と目標等）
第 3回：学習指導要領改訂の歩み
第 4回：新学習指導要領より（目標，各教科及び道徳科，総合的な学習の時間との関連）
第 5回：学級活動（目標及び内容）
第 6回：生徒会活動（目標及び内容）
第 7回：学校行事（目標及び内容）
第 8回：新学習指導要領に対応した学習評価（特別活動の評価について）
第 9回：特別活動と生徒指導（生徒指導の機能・ガイダンス機能について）
第10回：自己指導能力の育成（ロールプレイング・アサーショントレーニング）
第11回：学級活動の実践（構成的グループエンカウンター・話合い活動の方法など）
第12回：学級活動の指導計画（学級活動に関する年間指導計画）
第13回：生徒会活動の指導計画（生徒会活動に関する年間指導計画）
第14回：学校行事の指導計画（学校行事に関する年間指導計画）
第15回：演習：指導計画の作成
定期試験

テキスト

教科書名　　中学校学習指導要領解説　特別活動編
著者名　　文部科学省
出版社名　　東山書房

参考書・参考資料等

参考書名　　中学校学習指導要領解説　特別活動編（最新版）
著者名　　文部科学省
出版社名　　東山書房

参考書名　高等学校学習指導要領解説　特別活動編（最新版） 著者名　文部科学省 出版社名　海文堂出版	
学生に対する評価	
定期試験	50%
授業参加度（発表・課題作成・授業態度等）	50%

授業科目名： 教育方法の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 松﨑　力
			担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		

授業の到達目標及びテーマ

(1) 学習・発達心理学をはじめとする認知科学や行動科学の理論的背景を理解し、教材研究やカリキュラム開発などの実践的な教授・学習へと発展的に結び付けることができる。
(2) これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（「主体的・対話的で深い学び」）について理解することができる。
(3) 学習指導理論を踏まえ、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。
(4) 演習等を通して、板書方法から ICT の活用、教材研究や教材開発、評価及び授業改善に至るまでの学校教育に関わる基礎的・実践的な指導・教授技術を身に付けることができる。

授業の概要

本講座では、教育専門職に求められる「教育方法論」を系統的に学修する。すなわち、学校教育における授業・学習・評価・カリキュラム等の教育方法に関する問題を探究するとともに、必要な理論や方法論を学習し、問題解決するために教育実践力を育成する。

そのために、本講座においては、教育実習やインターンシップ等で求められるノウハウやスキルを、演習を通して習得し、学校教育現場で求められる実践的な授業力や教育力を重点的に育成する。

特に、次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の理解とそれを実現するために必要な教材研究、教材開発、授業設計能力やカリキュラム開発能力の基礎を育成するとともに、ICT を活用した学習指導法や教材開発等についても広く取り扱う。

また、ビデオによる小・中・高等学校の授業実践研究を通じて、授業改善を目的とした授業分析力や授業研究力を育成する。

授業計画

第 1 回 : 行動科学と認知科学に基づく授業のパラダイム
第 2 回 : 学力観の変遷
第 3 回 : active learning の背景
第 4 回 : 主体的・対話的で深い学びの実現
第 5 回 : 学力形成の背景①
第 6 回 : 学力形成の背景②
第 7 回 : 小学校「外国語活動」・「外国語」
第 8 回 : 授業分析と授業の構成
第 9 回 : S-T 授業分析
第 10 回 : 授業の構成要素と学習指導案
第 11 回 : 教材研究と教材開発（情報機器の活用）
第 12 回 : 学習評価の方法と課題
第 13 回 : performance 評価と rubric
第 14 回 : 学習指導案・presentation（情報機器の活用）
第 15 回 : 教材開発・presentation（情報機器の活用）
定期試験

テキスト

適宜講義資料を配布する。

参考書・参考資料等

参考書名　中学校学習指導要領　総則編（最新版）
著者名　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

参考書名　高等学校学習指導要領　総則編（最新版）
著者名　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

学生に対する評価

定期試験	30%
レポート	20%
授業参加度	50%

授業科目名： ICTの活用方法と理論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 松﨑　力 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		

授業の到達目標及びテーマ

（1）情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。
（2）情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。
（3）児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。

授業の概要

ICT の活用方法と理論では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業計画

第１回:授業における情報通信技術の活用の意義（社会的背景等）
第２回:ＩＣＴ技術を活用した授業改善の視点（個別最適化、主体的・対話的で深い学び）
第３回:外部団体との連携及び人材活用（ＩＣＴ支援員）
第４回:デジタル教材の作成と活用の技術（教材開発）
第５回:統合型校務支援システムや教育データを活用したＰＤＣＡサイクル等の実際（学習履歴）
第６回:遠隔・オンライン授業を可能にするシステムと技能（意義）
第７回:各教科、道徳、総合的な学習の時間における情報活用能力の育成（模擬授業）
第８回:端末活用の基本的な操作と指導技術（一人一端末）
定期試験

テキスト

教科書名　中学校学習指導要領
著者名　　文部科学省
出版社名　東山書房

教科書名　高等学校学習指導要領
著者名　　文部科学省
出版社名　東山書房

参考書・参考資料等

参考書・参考資料は適宜、授業内で紹介する。

学生に対する評価

定期試験	30%
レポート	20%
授業参加度（発表、授業態度等）	50%

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 新井　肇 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業の到達目標及びテーマ

(1) 生徒指導の概念を明確に理解する。
(2) 生徒指導が望ましい人間形成に果たす役割について理解する。
(3) 生徒指導が学校の全教育活動に通底する基本的な機能であることを理解する。
(4) 生徒指導における児童生徒理解の大切さと方法について理解する。
(5) 生徒指導上の課題の背景を踏まえた指導方法のあり方等について理解を深める。
(6) 学校教育における生徒指導体制、家庭や地域の諸機関と連携した指導のあり方について理解する。
(7) 進路指導の歴史的変遷、及び生徒指導と進路指導の在り方について理解する。
(8) 青少年の職業観・勤労観の形成、進路選択・職業選択に関する課題と社会的背景について理解する。
(9) キャリア教育の観点に立つ進路指導の考え方と方法について理解する。

授業の概要

本講義では、まず生徒指導に関する理論と方法について取り上げ、次いで進路指導に関する理論と方法について学ぶ。生徒指導については、生徒指導が学習指導とともに学校教育の基本的な機能であり、学校における教育活動のどの部分を切り取っても、そこには生徒指導の機能が生きて働いていることを明確にする。その上で、不登校、いじめ、暴力行為、自殺予防等の深刻な生徒指導上の問題を取り上げ、具体的な事例を紹介し、その対応の方法について考察する。進路指導については、職業観・勤労観の形成、進路選択・職業選択に関する課題と対応の方向性について考察した上で、自己決定、自己選択できる力の育成を目ざす取り組みを理解するとともに、キャリア教育理論をふまえたキャリア教育の具体的な取り組みについて学ぶ。全体を通して、不適応行動に対する指導・支援という消極的な対応に終わらず、予防的な意味も含め、成長・発達を支える生徒指導のあり方を探求することをめざす。

授業計画

第 1回: ガイダンス：生徒指導・進路指導・キャリア教育の教育的意義と今日的課題
第 2回: 生徒指導・進路指導・キャリア教育の歴史と原理・理論
第 3回: 教育課程の諸領域と生徒指導導の位置づけ
第 4回: 生徒指導における児童生徒理解の理論と方法
第 5回: 生徒指導の進め方(1)基本的な生活習慣の確立、校内規律、安全教育等
第 6回: 生徒指導の進め方(2)不登校、中途退学等、進路未定等
第 7回: 生徒指導の進め方(3)いじめ、暴力行為等
第 8回: 生徒指導の進め方(4)自殺予防、インターネットや性に関する課題等
第 9回: 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主要法令の理解と課題
第10回: 生徒指導・進路指導の校内組織体制の構築と関係機関との連携（児童虐待への対応等）
第11回: 進路指導・キャリア教育の教育課程における位置づけと展開の方向性
第12回: 進路指導・キャリア教育の進め方(1)自己理解・職業理解・啓発的経験の意義と進路指導
第13回: 進路指導・キャリア教育の進め方(2)中学校・高等学校での進路指導計画の確立と、小学校での進路指導の在り方
第14回: 進路指導・キャリア教育の進め方(3)児童生徒理解におけるキャリアカウンセリングの意義と方法
第15回: まとめ：学校の教育活動全体を通じての生徒指導・進路指導・キャリア教育の展開
定期試験

テキスト
作成した資料を授業時に適宜配付する。

参考書・参考資料等
参考書名　現代生徒指導論
著者名　日本生徒指導学会編著
出版社名　学事出版

参考書名　生徒指導提要（改訂版）
著者名　文部科学省　［編］
出版社名　教育図書

参考書名　中学校学習指導要領　総則編（最新版）
著者名　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

参考書名　高等学校学習指導要領　総則編（最新版）
著者名　文部科学省［編］
出版社名　東山書房

学生に対する評価
定期試験　60%
個別レポート課題（授業中に実施）　40%

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 新井　肇、森田　健宏 担当形態：クラス分け・単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業の到達目標及びテーマ

　カウンセリングや心理検査などを含めた学校心理学の基礎的知見を学び、教育の場において真に生徒や保護者を理解し、教育相談の基本姿勢をいかした援助が実践的できるようになる。

授業の概要

　今日、学校現場においてさまざまな問題が多発している。このような状況の中ですべての児童生徒が意欲的に学校生活を過ごせるよう、また一人の人間としての人格形成を促し、自己実現に向かって成長していけるよう援助していくことが教師に求められる。この授業では、主に「生徒指導提要（改訂版）～第３章第３節教育相談体制、第４節生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援」に示される趣旨に基づき、まず、教育相談の原理とともに、カウンセリング、心理検査、心理療法等の学校心理学に関する理論と実践について理解を深め、教育相談の基礎的知識や基姿勢姿勢を習得する。そのうえで、現代の教育現場の実情と心の問題について具体的、実践的に対応できるよう「いじめ」「非行」「心の病気」「自殺予防」などの事例をもとに解説し、また、グループ討論を通じて教師自ら積極的、建設的に指導・援助できる資質を身に付ける。さらに、保護者への支援、他の専門機関の役割と連携のあり方等についても理解を深め、現代の学校教育の役割と様々なニーズに対応できる教師の資質を習得することをめざす。

授業計画

第 1回: ガイダンス　教育相談とは
第 2回: 生徒指導と教育相談の原理と理解　～生徒指導提要より～
第 3回: カウンセリングの理論と教育相談
第 4回: カウンセリングの技術と教育相談への活用（1）受容と共感
第 5回: カウンセリングの技術と教育相談への活用（2）質問技法、反映技法
第 6回: カウンセリングの考え方を活かした教育相談の実践的理解（基本的傾聴技法の連鎖を含む）
第 7回: 教育相談に資する心理検査（1）性格検査、人間関係検査
第 8回: 教育相談に資する心理検査（2）知能検査、発達検査
第 9回: 発達障害のある子どもの理解と心理的査定の活用
第10回: 現代の教育場面における心の問題の理解（1）いじめ、クラスや部活動等における人間関係
第11回: 現代の教育場面における心の問題の理解（2）非行、暴力等と青年期の心の葛藤
第12回: 現代の教育場面における心の問題の理解（3）うつ、摂食障害等、青年期に多い心の病気
第13回: 保護者との関わり、養護教諭やスクールカウンセラー、他の専門機関などとの連携の在り方
第14回: キャリア意識を高める教育相談のあり方
第15回: 教育相談の課題、まとめ
定期試験

テキスト

　授業時に作成した資料を適宜配付する。

参考書・参考資料等

　参考書名　　生徒指導提要（改訂版）
　著者名　　文部科学省　編

出版社名　　教育図書	
学生に対する評価	
定期試験	60%
個別レポート課題（授業中に実施）	40%

シラバス：教職実践演習（中・高）

シラバス：教職実践演習（中・高）	単位数：２単位	担当教員名：太田和男、福永光伸
科　目	教育実践に関する科目	

履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	○

受講者数　　１５人～３０人

教員の連携・協力体制

教職実践演習の担当教員とその他の教職課程担当教員及び教育実習委員が、連携協力して実施する。また、適宜、教科に関する専門的事項を取り扱う教員とも連携協力する。

授業のテーマ及び到達目標

半年間の教職実践演習を通して、教職への使命感と情熱を高め、教員としての基礎的な資質と実践的指導力を身に付ける。テーマは教育課題の事例研究とフィールドワーク。

授業の概要

多様なプログラムを用意して、教師に必要な資質や能力を高めるだけでなく、学生に新しい時代に求められる教員の在り方について考えさせる。特に、学校教育をめぐる様々な課題を取り上げ、構成的グループ・エンカウンター、アサーション・トレーニング、ロールプレーイング、事例研究、フィールドワーク、ICT の活用、模擬授業を積極的に取り入れ、討論や発表を重ねて、期待されている教師力を培う。また、可能な限り学校現場での体験活動を取り入れることで、主体的・体験的な授業を展開する。

なお、各学生の履修履歴を踏まえ、不足している知識・技能を補う指導を行う。

授業計画

第１回: オリエンテーション　教職実践演習科目のねらい、基本方針及び演習計画等の確認
第２回: 履修カルテを活用し、４年間の教職課程の学修を振り返る
第３回:「コミュニケーション・スキルを身に付ける」について講義・ロールプレーイング
第４回:「教室での話し方」について　講義・班別協議・ロールプレーイング
第５回:「生徒指導上の諸課題」について (1) 講義・学校現場体験・ロールプレーイング
第６回:「生徒指導上の諸課題」について (2) 事例研究・班別協議・ロールプレーイング
第７回:「キャリア教育・進路指導」について　講義・班別協議・ロールプレーイング
第８回:「学級経営」について (1) 講義・班別協議・ロールプレーイング
第９回:「学級経営」について (2) 学校現場体験
第10回:「授業外活動」について　事例研究・学校現場体験
第11回: 模擬授業「道徳」授業実践
第12回: 模擬授業「国語科」授業実践(1) 学校現場体験(授業参観、授業実践体験)
第13回: 模擬授業「国語科」授業実践(2)
第14回:「社会人としての常識やマナー」について講義・班別協議・ロールプレーイング
第15回: 演習のまとめ（これまでの演習を通して、教師としての資質と能力について自己評価し、望ましい教師像を具現化するため自己課題を明らかにする）

テキスト

適宜プリント等の資料を用意する。

参考書・参考資料等

参考書名　　中学校学習指導要領
著者名　　文部科学省
出版社名　　東山書房

参考書名　　高等学校学習指導要領
著者名　　文部科学省
出版社名　　東山書房

学生に対する評価

定期試験	30%
小テスト	10%
レポート	20%
授業外学習	10%
授業参加度（発表、授業態度等）	30%

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認

し、「○」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。